

ぽらりす



≪2025年2月2日発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します≫

【金星にチャレンジ！】

日没後の南西の空にひととき明るく輝く一番星、宵の明星(よいのみょうじょう)と呼ばれる金星が見頃です。今月は、そんな金星に対してもう一步踏み込んだ挑戦をしてみませんか？

1. 風景写真撮影

「藻岩山と金星」「夕焼けと宵の明星」等、いろいろな題材が考えられます。細い月が近くに見えるのは2月1日(土)、2日(日)、3月1日(土)、2日(日)です。夕焼けは空の明るさを調節して、明るめ・暗めの何通りかを撮影するとよいでしょう。

2. 望遠鏡での観察

日没後間もなく金星が見え始めるので、望遠鏡を向けてみましょう。小型のものでも満ち欠けの形が分かります。また、3月中旬頃までは金星が地球に近づくので、見かけの大きさが大きくなるのも分かります。同じ倍率で何度か見比べてみることをお勧めします。

天文台では、午後の公開時間(14~16時)に観望します。混雑していなければ、ご自身のスマートフォンで撮影できるかもしれません。ただし、夜間公開の開始時(2月7~9日18時、2月21~23日18時)は金星は空に輝いていますが、公園内の木の枝に隠されるため観望は困難です。



昼間の金星(札幌市天文台で撮影)

左から6月20日、7月5日、7月21日(全て2023年、同一倍率)
2025年2月も同じような満ち欠けが見られます。

3. 肉眼での観察

実は、金星はとても明るいので昼間の青空の中でも肉眼※で見つけることができます。2月15日に最大光度(-4.9等。何と1等星の100倍以上の明るさです。)になると予報されていますが、1月初め(-4.5等)の段階でも見つけることができたので、今月中はチャンスです。

※重要なのは「裸眼の視力」ではなく、眼鏡等で矯正していてもよいので「遠くの景色がはっきり見えること」です。

ア. 午後、直射日光が当たらない、建物の陰などで、

イ. 太陽を基準にして左上方向に、腕を伸ばした時の「握りこぶし約4つ分」離れた所を探します。

ウ. 薄雲がかかって白っぽい空よりも、多少雲があっても青い空の方が見つけやすいです。

天文台で金星を観望している時は、ドーム内に直射日光は当たらず、望遠鏡が金星に向いているので探しやすくなります。ぜひ「肉眼で昼間の金星を見つける」ことにもチャレンジしてください。(布施 隆久)

【注意】昼間の空を望遠鏡や双眼鏡で見る時は、一瞬たりともレンズを通して太陽光が目に入らないように細心の注意を払ってください。失明する恐れがあります。

スマートフォンで星空を撮影してみよう

近年、スマートフォンのカメラの性能が大変進歩し、星空の撮影もできるようになってきました。

機種によっても性能が異なりますが、最新機種でなくても十分素晴らしく撮影できるものもあります。

撮影方法は、シャッターボタンを押すだけですが、中には星空を撮影するための機能が装備された機種もあります。iPhone11以降では、三脚を使用すると30秒間かけて一枚を撮影する機能が現れます。スマートフォンで使用できる三脚は100円ショップや電器店で購入することができます。以下の写真は全てiPhone13proで撮影しました。

昨年の10月の紫金山・アトラス彗星と札幌市天文台です。○の中に微かに彗星が写りました。



昇ってきたオリオン座です。安平町・昨年9月29日。



(当別町)

昨年10月24日に出現した低緯度オーロラです。30秒の間にLEDライトで文字を書きました。



カナダのオーロラも撮影できました。2024年12月30日撮影。

昨年5月11日の低緯度オーロラ出現の際に、日本国内の一般の人たちが撮影した写真を多数集め分析した結果が正式な科学論文として発表されました。※ その中にはスマートフォンで撮影されたものも含まれているそうです。低緯度オーロラは今年も出現が期待されていますので、ぜひ撮影に挑戦してみてください。

(横山明日香)

※興味のある方はこちら→



国立極地研究所 2024年5月に日本に現れたオーロラの色を謎を解明～日本全国から寄せられた写真を解析～

☆ 2月の夜間公開（予約は不要です。公開時間内にお越しください。）

7日(金)～9日(日) 18～20時 月・火星・木星・冬の星座

21日(金)～23日(日) 18～20時 火星・木星・冬の星座

※ 休台日は、3日(月)、10日(月)、12日(水)、17日(月)、25日(火)です。

編集・発行 札幌市天文台 〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-17 電話 011-511-9624